

メルマガ会員募集! >> 無料登録はこちら

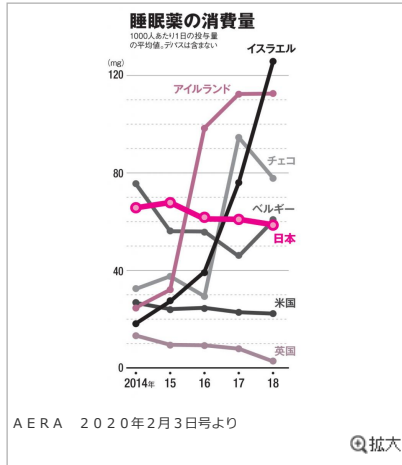
AERA dot.

ニュース ビジネス エンタメ スポーツ 教育・ライフ ヘルス フォトギャラリー コラム

トップ > ヘルス > 記事

高齢者の睡眠薬・抗不安薬の危険なぜ放置？ 副作用が明記されない背景

坂口直, 辰濃哲郎 2020.2.2 07:00 AERA #シニア #ヘルス #介護を考える
PR 北陸最大のバラボアンテナでデータ収集! 福井工業大学の今後の展開



BZ系薬剤などによる薬剤起因性老年症候群の被害は、どれほど広がっているのか。

兵庫県立ひょうごこころの医療センターの小田陽彦・認知症疾患医療センター長は「認知症の疑いでやってくる患者の1~2割は、薬剤によるとというのが実感だ」と話す。関東の特別養護老人ホームの看護師も、病棟の3割ほどと証言する。

厚生省が推計した20年の認知症患者数は602万~631万人だ。その1割が薬剤によるとすると60万人、2割だと120万人。これは大雑把な推計に過ぎないが、決して過小評価ではないというのが私たちの実感だ。

厚生省は18年5月に「高齢者の医薬品適正使用の指針」(総論編)で、「薬剤起因性老年症候群と主な原因薬剤」の一覧表を公表し、認知機能低下の危険性などを明記した。だが、BZ系薬剤の安全性に関する基本情報を記載する添付文書には、これらの副作用は記されていない。

「きちんと記載すべきでは」

そんな質問に、医薬安全対策課の花谷忠昭課長補佐は言う。

「より質の高いエビデンスがなければ、なかなか添付文書には書けないんです」

この間にも、高齢者の尊厳が奪われている。(医薬経済社・坂口直、ノンフィクション作家・辰濃哲郎)

※AERA 2020年2月3日号より抜粋

国内で75歳以上によく使われている主なベンゾジアゼピン(BZ)系睡眠薬・抗不安薬

製品名	成分名 (販売品名)	症例数(75歳以上)
デバス ^{※1}	エチゾラム	4冊2157万
レンドルミン	フロチゾラム	2冊3814万
マイスリー ^{※2}	ゾルピデム酒石酸塩	2冊1811万
ゾラックス ^{※3}	アルプラゾラム	1冊644万
ハルシオン	トリアゾラム	9428万
ルネスタ ^{※2}	エソピクロン	6635万
サイレナス ^{※3}	フルコトラゼパム	5735万
セルシン/ホリゾン	ジアゼパム	5208万
ワイバックス	ロラゼパム	4303万
メイラックス	ロフラゼパムエチル	2584万

主な副作用 過鎮静、認知機能低下、せん妄、転倒・骨折、運動機能低下など(非BZも類似の有害作用の可能性がある)

2017年。※1 薬効分類上は「精神神経作用剤」だが、作用機序が異なるため、表ではベンゾ系として記載。 ※2 アスチレン・ルネスタはベンゾ系特有の有害作用を有する。 ※3 既述した漢字名も取って「Zドラッグ」と呼ばれている ※3 ロシア・アールは18年に販売中止

AERA 2020年2月3日号より

AERA (アエラ) 2020年 2/3 号 [表紙: King Gnu] [雑誌]
朝日新聞出版
ISBN : B082PP9XG6
amazon.co.jp

おすすめの記事